

研修会報告

平成 31 年 2 月 27 日

文責：播磨 晋太郎

研修会名：生物化学分析部門研修会

テーマ：「救急医療における臨床検査値」

開催日時：平成 31 年 2 月 23 日(土) 14:00 ~ 16:40

会場：東北医科薬科大学 福室キャンパス 教育研究棟 3F プラタナスホール

<プログラム>

【講演 1】

「生化学自動分析装置の基礎とトラブル事例について」

講師：キャノンメディカルシステムズ株式会社 東北支社
営業推進部 検体検査システム担当 濱田 順一 先生

【講演 2】

事例紹介「ちょっと違った視点からの検査結果へのアプローチ」

講師：東北医科薬科大学病院 検査部 副臨床検査技師長
小堺 利恵 技師（宮臨技生物化学分析部門員）

【特別講演】

「救急医療と臨床検査値」

講師：イムス明理会仙台総合病院 麻酔科 阿部 光二 先生

日臨技生涯教育研修制度：専門 20 点

参加者：会員 42 名、賛助会員 3 名、非会員 1 名、講師 3 名

計 49 名

【内容】

「救急医療における臨床検査値」をテーマに、救急医療で求められる迅速且つ精確な結果報告について様々な視点から学ぶ事を目的に企画しました。講演 1 では、キャノンメディカルシステムズ(株)の濱田先生に生化学自動分析装置の基礎についてご講演して頂きました。特に反応タイムコースの異常事例については、機器のトラブル時や検体に起因する要因など具体例を挙げて解説して頂きました。講演 2 では、東北医科薬科大学病院の小堺技師に夜間・休日の問い合わせ事例の中から、CK と CK-MB の逆転現象について、解析結果を基に各測定法の原理を含めて解説して頂きました。特別講演として、イムス明理会仙台総合病院 阿部光二先生に「救急医療と臨床検査値」について実際の症例を交えながら、ご講演して頂きました。現在、臨床検査値を読むトレーニングとして RCPC(Reversed Clinico-Pathological Conference)を行う機会が多くあると思いますが、講演では、診療さ

ながらに患者の身体所見から行うべき検査と検査結果から病態を考えるという日常業務と異なった流れで検査値を考える機会となり、非常に勉強になりました。また、質問にも丁寧に答えて頂き、日常の疑問を解決する機会にもなったと思います。

今後の研修会においては、記載して頂いたアンケート結果を基に有用な研修会を企画していきたいと思います。